

定 期 作 況 報 告

平成30年10月
(10月20日現在)



道総研

北見農業試験場

1. 気象経過

9月下旬：最高気温は平年並で、最低気温は平年より高く、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より少なかった（平年比49%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比73%）。

10月上旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年より高く、平均気温は平年よりやや高かった。降水は平年より極めて多かった（平年比269%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比69%）。

10月中旬：最高気温および最低気温はともに平年よりやや高く、平均気温は平年並であった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比69%）。日照時間は平年並であった（平年比114%）。

以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温は平年よりやや高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並であった。

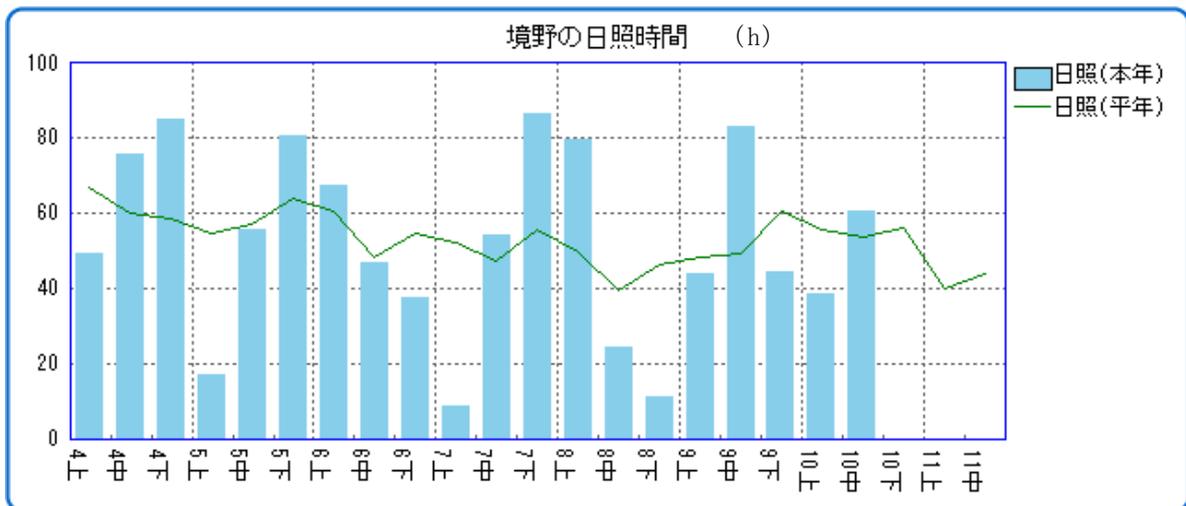
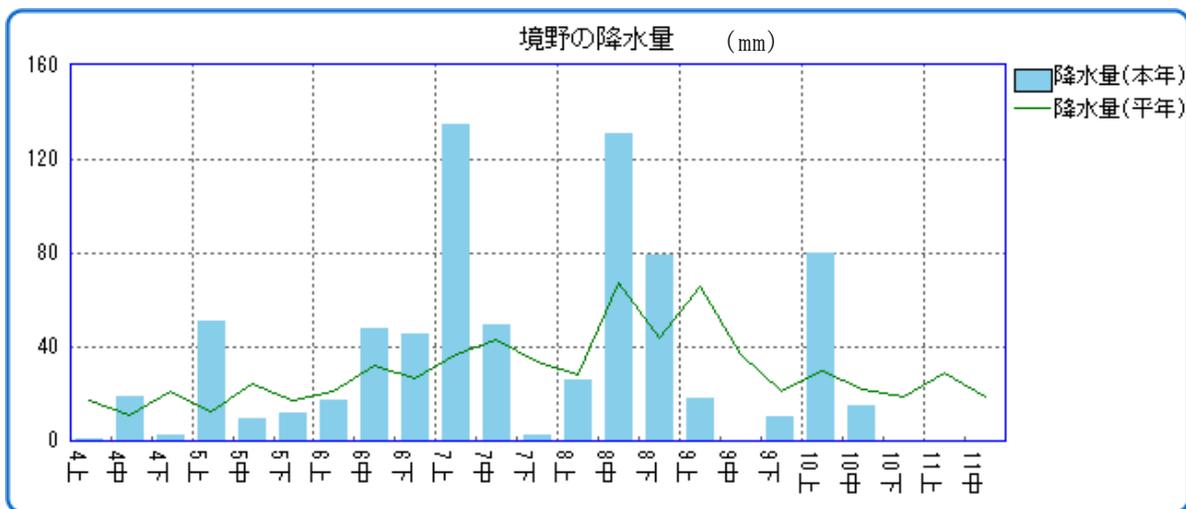
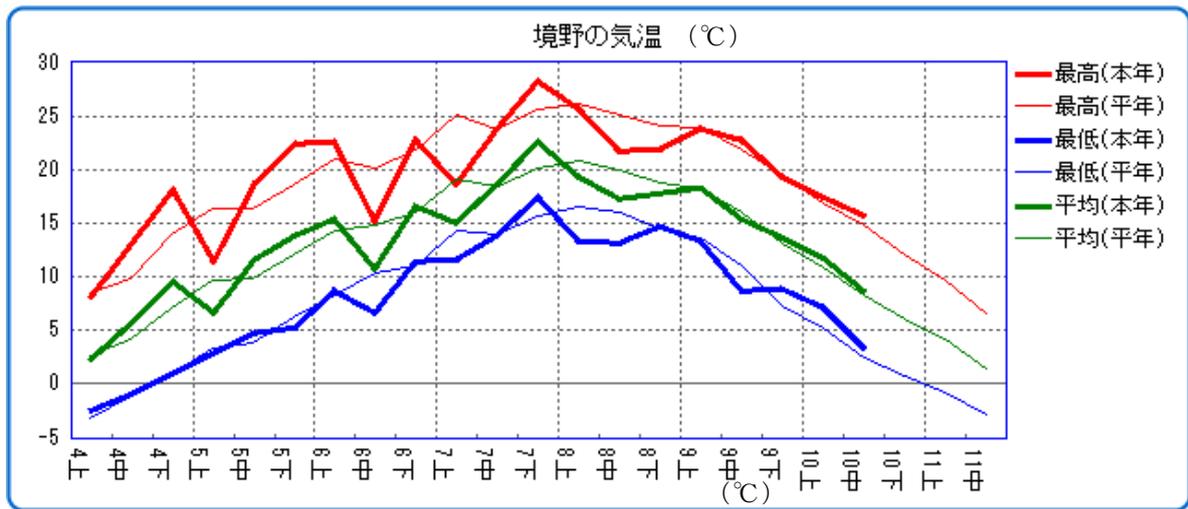
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	13.7	13.1	0.6	19.4	19.4	0.0	8.9	7.3	1.6
10月 上旬	11.7	10.8	0.9	17.5	16.8	0.7	7.1	5.2	1.9
10月 中旬	8.7	8.3	0.4	15.8	14.8	1.0	3.3	2.5	0.8

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	10.0	20.4	-10.4	44.5	60.6	-16.1
10月 上旬	80.0	29.7	50.3	38.7	55.8	-17.1
10月 中旬	15.0	21.6	-6.6	60.9	53.6	7.3

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) とうもろこし(サイレージ用) 作況: 不良

事由: 収穫期は平年より3日遅い9月27日であった。収穫時の稈長は平年より24cm短く、子実の熟度は黄熟初期と平年並で、総体の乾物率は平年よりやや低かった。乾物茎葉重および乾物雌穂重は平年より少なく、乾物総重および推定TDN収量は、ともに平年比82%と平年より極めて少なかった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
収穫期 (月.日)	9.27	9.24	3
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期	-
稈長(cm) (9月20日)	248	272	△24
生総重(kg/10a)	5678	6800	△1122
乾物茎葉重(kg/10a)	815	942	△127
乾物雌穂重(kg/10a)	811	1032	△221
乾物総重(kg/10a)	1626	1974	△348
同上平年比(%)	82	100	△18
推定TDN収量(kg/10a)	1164	1425	△261
同上平年比(%)	82	100	△18
総体の乾物率(%)	28.6	29.1	△0.5
乾雌穂重割合(%)	49.9	52.4	△2.5
有効雌穂割合(%)	100.0	99.3	0.7

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 大豆

作 況：不良

事 由：成熟期は平年より5日遅い9月29日であった。主茎長、主茎節数、分枝数、着莢数はいずれも平年を下回り、一莢内粒数も平年を下回った。子実重は平年比82%と低収であった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.29	9.24	5
主茎長(cm) (成熟期)	55.6	73.7	△18.1
主茎節数(節) (成熟期)	9.7	11.3	△1.6
分枝数(本/株) (成熟期)	4.9	5.5	△0.6
着莢数(個/株) (成熟期)	61.1	70.7	△9.6
一莢内粒数	1.75	1.91	△0.16
子実重(kg/10a)	305	371	△66
同上平年比(%)	82	100	△18

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 小豆

作 況：やや不良

事 由：登熟は大幅に遅れ、成熟期は平年と比べ「サホロシヨウズ」で24日、「エリモシヨウズ」で23日遅かった。両品種とも主茎長、分枝数は平年を下回り、主茎節数は平年をやや下回った。着莢数は平年並だが一莢内粒数は平年をやや下回っている。また、登熟が大幅に遅れたことによる品質の低下が懸念される。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	10.13	9.19	24	10.17	9.24	23
主茎長 (cm) (成熟期)	60.9	85.2	△24.3	57.7	75.1	△17.4
主茎節数 (節) (成熟期)	13.1	14.0	△ 0.9	13.7	14.3	△ 0.6
分枝数 (本/株) (成熟期)	3.2	3.8	△ 0.6	3.1	4.0	△ 0.9
着莢数 (莢/株) (成熟期)	53.9	52.8	1.1	52.5	55.6	△ 3.1
一莢内粒数	5.55	6.16	△0.61	6.20	6.50	△0.30
子実重 (kg/10a)		395			388	
同上平年比 (%)		100			100	

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

4) 菜豆 作況：不良

事由：着莢数は平年を上回り、一莢内粒数は平年並であったが、百粒重が平年をかなり下回っており、子実重は平年比90%と低収であった。小粒傾向に加え、8月下旬の降雨による色流れ粒が発生し、屑粒率は平年より高かった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
着莢数(莢/株) (成熟期)	22.3	20.1	2.2
一莢内粒数	2.93	2.86	0.07
子実重(kg/10a)	285	316	△ 31
同上平年比(%)	90	100	△ 10
百粒重(g)	57.0	69.8	△12.8
屑粒率(%)	27.2	10.1	17.1

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒：[下屑粒]+[色流れ粒]

5) ばれいしょ 作況：やや不良

事由：「コナフブキ」の枯ちよう期は、平年より3日遅い10月7日であった。上いも数は平年よりやや多かったものの、上いも平均重が平年より14g軽く、上いも重は平年比93%であった。9月上旬から9月下旬まで降水量が少なかったことから、でん粉価は平年より高く、でん粉重は平年比97%であった。

以上のことから、前報の「男爵薯」と併せ、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちよう期 (月.日)	8.23	8.31	△8	10.7	10.4	3
上いも数(個/株)	11.4	10.6	0.8	11.1	10.5	0.6
上いも平均重(g)	86	99	△13	94	108	△14
上いも重(kg/10a)	4357	4613	△256	4646	5010	△364
同上平年比(%)	94	100	△6	93	100	△7
でん粉価(%)	14.8	14.9	△0.1	23.0	22.1	0.9
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	1022	1058	△36
同上平年比(%)	—	—	—	97	100	△3

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

6) てんさい

作 況：平年並

事 由：収穫は平年より2日遅い10月22日に行った。この一か月間は気温がやや高めに推移し、降水量も多かったため、根重は前報よりやや持ち直したものの、平年には及ばなかった。一方、根中糖分は8月から9月中旬までが低温傾向であったため平年を上回った。このため糖量は、ほぼ平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (10月20日)	5162	3851	1311	6443	4458	1985	5691	4599	1092
根重 (kg/10a) (10月20日)	7438	7995	△557	7230	7464	△234	6160	6675	△515
根中糖分 (%) (10月20日)	18.46	17.10	1.36	19.10	18.08	1.02	18.12	17.34	0.78
糖量 (kg/10a) (10月20日)	1381	1360	21	1380	1338	42	1116	1196	△80

注1) 平年値は前7か年中、平成26年（最豊）、28年（最凶）を除く5か年の平均。

7) 牧 草（チモシー）

作 況：平年並

事 由：3番草の収穫は平年より1日早い10月3日に行った。3番草の乾物収量は平年比104%、1～3番草の合計乾物収量は平年比98%と、いずれも平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	3番草	10.3	10.4	△1
病害罹病程度	3番草	4.5	2.9	1.6
草丈(cm)	3番草	39	43	△4
生草収量 (kg/10a)	3番草	749	637	112
	1～3番草合計	3944	4307	△363
乾物率 (%)	3番草	21.9	26.2	△4.3
乾物収量 (kg/10a)	3番草	163	156	7
	1～3番草合計	925	941	△16
同上平年比 (%)	3番草	104	100	4
	1～3番草合計	98	100	△2

注1) 平年値は前7か年中、平成24年（最豊）、27年（最凶）を除く5か年の平均。

2) 病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。